

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名： 発達障害・適応障害など「幼年期から成人期までの幅広い自立支援に関わる人材育成」

2 実施団体： 特定非営利活動法人 未来へ

3 協働担当課： 健康福祉部福祉振興課

4 事業概要

若者のひきこもりが問題視され、すでに何年もたちますが一向に改善の兆しはなく、不登校の若年化も進んでいます。またひきこもりの高齢化も進み社会的孤立が一層深刻化しています。その一つの要因として発達障害がありますが、発達障害は個々に対する多様な関わり方が必要で支援者側に高いスキルが求められます。しかし幼年期と青年期では対応も大きく変わり支援の限界も発生します。このような問題は早い段階で適切な支援を受けることができている場合と、そうでない場合とでは学校生活だけではなく社会に出た後の困難も大きく変わります。長い期間特性の自己理解がないまま、不適応を起こしてしまい社会自立ができないケースが後を絶ちません。その為の支援者のスキルアップの機会を充実させることと、それぞれの現場で起きる問題を本人・家族・支援者で共有し、より充実したサポートができる支援者を地域で育成することが求められます。都市部ではなくても地域で安定した支援体制が整う事で今、問題を抱えている若者だけではなく、これから成長する子ども達に対しても安心して暮らすことができる地域づくりにつながると確信します。その為にも地域で学ぶ機会を増やすことでより一層の人材育成に貢献したいと考えています。

5 実施内容

■事業1、自立困難な若者を対象とした事例検討会

内容：実際に専門機関で長く働いている方を招いての事例検討会である。業界に入ったばかりの支援員を交えて行い、難解な点があった場合その都度専門家からのアドバイスを聞くことができるようにし支援員のスキルアップを目的にしている。また、事例検討会の様子は参加団体や氏名などの個人情報に配慮した冊子を作成しており、各機関に配布し、いつでも読み直せるような環境を作っている。尚、事例については架空のものである。

タイムスケジュール

■事例検討会の説明 30分

■事例検討会 60分

・60分の内訳

・事例の紹介 5分

・事例検討 50分

- ・事例検討者の気づきの発表 5分
- 全員の感想(一言ずつ)
- リフレクションカードの記入

開催日程:

- 第1回、令和1年7月19日「20代女性幼少期脳性麻痺により歩行困難となり障害年金の取得生活支援就労支援が必要と思われる事例」(参加者15名)
- 第2回、令和1年9月2日「両親亡き後の生活準備ってどう組み立てたらいいの？」(参加者21名)
- 第3回、令和1年11月11日「衝動のコントロールが難しく、逸脱した行動を起こしてしまうケース」(参加者12名)
- 第4回、令和1年12月3日「共依存関係にある母子の自立について」(参加者11名)

■事業2、講師を招いての「発達に遅れを持つ子どもへの指導」勉強会

内容: 著名な講師の方をお呼びして保護者、教育関係者、施設関係者を対象にした講演会である。講演会の内容はDVDにし当日聞くことができなかった人や組織内で勉強会をする際などに貸し出しができるように準備をしている。講演の内容については地域の自立支援協議会でアンケートを行い決定している。

開催日程:

- 第1回、令和1年10月4日、講師 太田篤志氏 参加者53名 勝央町
テーマ「発達に遅れを持つ子どもへの支援
～発達障害の特性理解と対応～」
- 第2回、令和1年10月14日、講師 新井利明氏 参加者82名 津山市
テーマ「発達に遅れを持つ子どもへの指導」
- 第3回、令和1年11月25日、講師 新井利明氏 参加者51名 美作市
テーマ「発達に遅れを持つ子どもへの指導」
- 第4回、令和1年12月1日、講師 坂井聡氏 参加者102名 津山市
テーマ「特別な支援を必要とする子どもの理解と支援—障害とは何か?—」

■事業3、児童家庭支援センター研究

内容: 児童相談所が設置されている市には補完施設として児童家庭支援センターを設置しなくてはならない。もし津山市に設置をするとしたら開設までの手続き、開設してからの対応などを以前から運営している岡山市、倉敷市の児童家庭支援センターに協力していただき、見学、聞き取り調査を行った。

見学日程:

- 令和1年8月5日 児童家庭支援センターくもれ見学(倉敷市)
- 令和1年8月6日 児童家庭支援センターどんぐり見学(岡山市)

事業4、美作圏域支援員育成協議会

内容: 当法人で採択された事業の問題点をアドバイスしていただき、解決策を講じ

てくださる会議の場として協議会を発足した。また、事業中に協力の要請（自立支援協議会への加入、講演会、事例検討会の個人情報保護に関するアドバイス）をしている。基本的には民間、行政偏らず参加してくださっている。

参加機関一覧：

- ・社会医療法人高見徳風会 相談支援事業所きぼう
- ・社会福祉法人津山みのり学園 児童発達支援センターキッズみのり
- ・つやま地域生活支援センター つばさ
- ・津山手をつなぐ親の会
- ・津山市子ども保健部 子ども子育て相談室
- ・津山市健康福祉部健康増進課
- ・津山市青少年育成センター
- ・真庭市健康福祉部福祉課
- ・美作市健康福祉部社会福祉課
- ・新庄村役場住民福祉課
- ・鏡野町保健福祉課
- ・勝央町教育委員会教育振興部
- ・奈義町子ども長寿化
- ・西粟倉村役場保健福祉課
- ・久米南町役場
- ・美咲町健康増進課
- ・岡山県津山児童相談所
- ・おかやま発達障害者支援センター 県北支所
- ・美作県民局健康福祉部福祉振興課
- ・特定非営利活動法人未来へ

開催日程：

第1回、令和1年6月20日

第2回、令和1年9月30日

第3回、令和1年12月9日

■成果発表会

内容：当事業の内容を成果発表会と称し事業ごとの成果を発表する。発表後は基調講演を講師の方にしてもらい更なるスキルアップを目指すものとする。

開催日程：令和2年2月9日 津山市

・成果発表

事例検討会について おかやま発達障害者支援センター 柴崎 晃司氏

全体成果発表について 特定非営利活動法人未来へ 藤本 優

講演 小栗 正幸氏（参加者120名）

テーマ：「支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉」

	
<p>美作圏域支援員育成協議会</p>	<p>児童家庭支援センター見学(どんぐり)</p>
	
<p>事例検討会(美作市)</p>	<p>成果発表会(小栗氏講演時)</p>

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

事例検討会、講演会ともに多くの方に参加していただくことができた。すべての事業に参加して下さった人数を合計すると約500人にのぼる。この人数が今回の美作国創生公募提案事業内で分かった、支援員支援を必要とさせていただいている人数に相当するであろうと感じる。また、事例検討会ではリフレクションカードというものを反省点含め書いてもらっておりその中でも「今回の事例検討会について」と「次回もこの事例検討会があれば参加したいと思いますか?」という質問に対してどちらも最高評価の票が9割以上を占めている。事例検討会に関しては概ねスキルアップに関する成果が上がったのではないかと考える。講演会に関しては、終了時にアンケートこそ取ってはいないものの帰り際に資料をもらっていく参加者や、今回の講演のDVDはい

つ貸し出しを始めるのかなどを尋ねてくる方が後を絶たなかった。この2点からわかるように今美作圏域の支援員は、このようなスキルアップ研修に飢えているのが現状ではないかと思う。それを知ることができた事も成果と言えるのではないかと感じる。

また、当事業を行うにあたって問題視されていた美作圏域の各市町村との連携についてであるが、初期段階から構想を説明するために訪ねてまわり協力要請をしたい事などを綿密に相談していく中で支援員支援という目標で考えが一致し美作圏域支援育成協議会に入っただき協力を得ることができるようになった。この連携は今後どのような研修をしてもかかわってくるので、今回の関係を維持しつつ次回以降の研修がスムーズに開催できるようにしていければと考えている。

(2) 今後の課題

今後の課題として、講演会の開催場所について真庭市のみ自立支援協議会に加入する時期が遅く講演ができていないため取り急ぎ支援員育成のための講演会を開催したいと考えている。また、今年度の活動については当法人がほとんどの内容を決めて進行してしまっていた部分があるため、協力をしてくださっている当事者団体や民間の専門機関、市役所職員のその地域にあったニーズを協議し主体になってもらう必要があるのではないかと考える。部会の方ではアンケートでテーマやお招きしたい講師の名前を調査したのだが、全てが全て網羅できていないわけではない。調査結果の結果を基準に票が多数入っているものから講演、事例検討会を開催しているのが現状であるため、その他の入っている票にも目を向けていかなくてはならないのではないかと考える。

7 県民局と協働した効果及び課題

岡山県美作県民局と共同で今回の事業を進行していくにあたり、県から各地方自治体に声をかけていただいたことが一番効果として大きかったのではないかと感じる。県民局から採択されているとは言え、我々のような1NPOからの声掛けでは協力要請がここまでスムーズに行くことはなかつただろうと考える。今回の事業では協力要請の際に毎回そこまで足を運んでくださり、説明をして下さったおかげで素早く信頼を得ることができ事業成功へと導いてくださった。また講演会を開催する場所についても当法人からの予約では半年前からしか予約ができなかったと言われていたのであるが、県から声をかけていただいたことで、1年前からでも予約をすることができた。力がない法人ではこのようにはいかず事業を進めていくにあたり、苦戦を強いられていた事と思うが協力して下さったことで、より支援員のスキルアップという目標に準じた結果になったのではないかと考える。